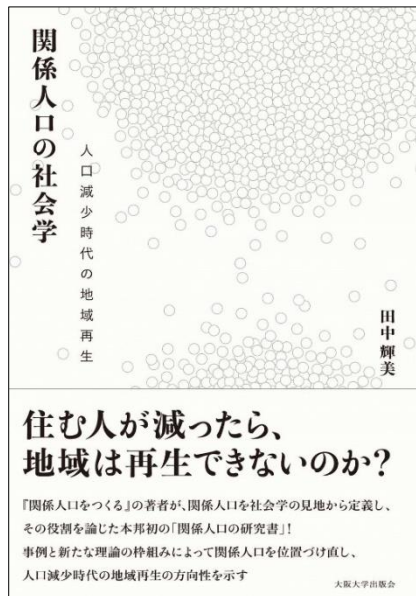




LIBRARY NEWS

保健体育科の菅原先生におすすめの本を紹介してもらいました。

ご紹介の本は図書館に所蔵しています。みなさん要チェックです！



『関係人口の社会学』

田中輝美著 大阪大学出版会 2021.4

○江津が日本社会の最先端を行く現在

去年校内探究フェスタでやった「関係人口」という言葉、覚えていますか？
今回は、「関係人口の社会学」という本について紹介したいと思います。
関係人口とは、「特定の地域に継続的に関心を持ち関わるそよ者」として定義されています。

この本では、江津の事例について書かれています。私は島根に来る前にこの本を読んで江津という街に興味を持ちました。

江津は、「シャッター通り商店街が蘇った江津」という題名で紹介されています。
これまでの日本社会では最後尾に位置付けられていた江津市が縮小社会になったことでこそ「最先端」となり、
だからこそ、足下にある地域課題を武器にするという逆転の発想で地域を再生させていこうという新たな時代に向けた大きなきっかけとなります。

その中で、本校である江津工業高校は、産業振興や地域資源活用、そして人材育成に必要な学校である。と書かれています (p178)。

引用 p178

続いて横田氏が「最後尾から発信（問題・課題が武器に）」をテーマに発表に立った。少子高齢化や限界集落化、地場産業の低迷、そして負の連鎖も起こっているという地域課題がある一方、少子高齢化の最先端であり、空き家の存在や山、川、海といった自然が豊かである特徴を指摘した上で、産業振興や地域資源活用、そして人材育成の重要性を、時には声を詰まらせて涙ぐみながら訴えたのである。江津工業高校同窓会の活用も盛り込まれた。



〇ないならつくろう

この本の著者にお会いしたとき、こんな事を言われました。「ないならつくろう」。

この言葉は、工業高校出身の僕にとってワクワクします。先ほど書いたように、日本の最先端となっている江津市は、日本社会に事例がないことが沢山あります。

日本の最先端をいく江津であるため、前例がない。前例はみんなで作っていく必要があります。今、江津工業高校で学んでいることや、自分の将来像を踏まえて、どうやったら母校がある江津市に貢献できるのか。考えていく必要があると思っています。

〇最後に

県外出身いわば外部の人である私ですが、日本社会の最先端に行く江津市で、みんなでなにかをつくっていくことに対してワクワクしています。だから江津で先生をしているし、みんなにこの思いを知ってほしいと思っています。今後、校内探究フェスタや地域の人から学ぼう、各授業でも、ヒントとなることが隠されていると思います。自分の興味関心に向けて、様々な視点から「江津」や「島根」、「自分の将来」について考えてみてください！

司書の感想

江津市出身のわたしはみなさんと同じくらいの歳のときは都会に憧れを持っていました。みなさんはいかがでしょう。一度江津を離れ、社会人となって再び江津に住みはじめたときに「住みやすいし、良いところだな」と考えが変わりました。その理由に江津を盛り上げようとする人たちの努力やアイデアがあったからだということに気付かされました。江津にしかない良いところもたくさんありますよね。江津市に縁があるみなさんに是非とも読んでもらいたい一冊です。

まちづくり・地域活性に興味をもったあなたへおすすめ。次に読みたい本

☆『日本トコトコ vol.1～2』 深町信介著 ハーベスト出版

東京から日本一遠いまち、江津市が載っています！

☆『山崎亮とゆく コミュニティデザインの現場』 渡辺直子著 織研新聞社

コミュニティデザインとは？独自の手法で地域の問題解決を図る。

☆『島根のトリセツ 地図で読み解く初耳秘話』 昭文社

意外と知らない？島根の魅力を解説。

☆『地方は活性化するか否か』 こばやしたけし著 学研プラス

マンガで読みやすい。女子高生のほとりは自分たちが住む街の人口が徐々に減っていることを知り、これからこの街がどうなっていくのか考え始める。

